



**平成28年12月期 第3四半期
決算説明資料
(2016年度)**

2016年11月10日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

業績概要（2016年1-9月）

	2015年 1-9月	2016年 1-9月
	億円	

石油事業営業利益 (CCS*ベース)	378	327
エネルギーソリューション事業営業利益	-31	-55
CCS*ベース営業利益	346	272
経常利益	-40	245
CCS*ベース経常利益	334	244
親会社株主に帰属する四半期純利益	-74	112
CCS*ベース親会社株主に帰属する四半期純利益**	166	111
1株当たり親会社株主に帰属する四半期純利益(円)	-19.6	29.8

(注)「その他」および「調整額」は石油事業に含む

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いた利益)

**親会社株主に帰属する四半期純利益(CCSベース):

在庫評価の影響を除いた四半期純利益(法人税等への影響は簡易的に算出)

決算ハイライト

- 総平均法ベース経常利益は245億円と、前年同期比で大幅増益。CCSベース経常利益は244億円と、前年同期比で減益。在庫評価影響は1-3月期のマイナスが解消し、1-9月累計ではプラスに転じた
- 石油事業CCSベース営業利益は327億円と、前年同期比で減益。エネルギーソリューション事業は55億円の営業損失となり、前年同期比で悪化

石油事業ハイライト

- 国内燃料油マージンは、中間留分を中心に低迷。特に1月・7月において原油価格が下落したこと、製品輸出マージンが漸減傾向にあったことも影響
- 累計期間のガソリン・軽油などの主要4油種合計の国内販売数量は、前年を上回るとともに、対前年伸び率も業界平均を上回った

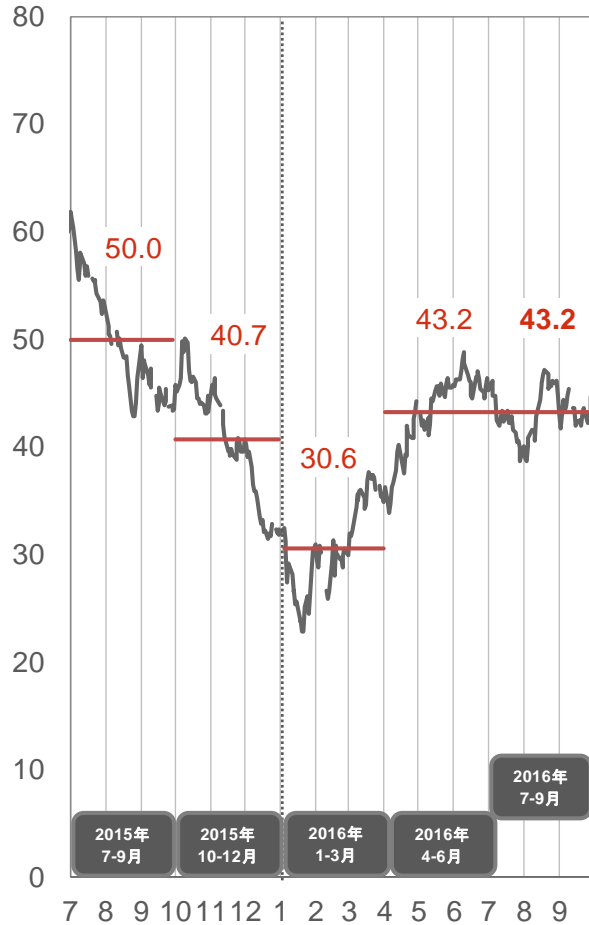
エネルギーソリューション事業ハイライト

- (太陽電池事業) パネル出荷数量は国内外ともに計画通りに進捗。販売単価は円高の影響も含め、継続的に下落基調。引き続きコスト削減に取り組むも、前年同期比で損失拡大
- (電力事業) 前年同期比で増益。自社発電所の安定的高稼働および、小売・卸売を中心とした販売ポートフォリオ最適化が貢献した

事業環境－原油、為替

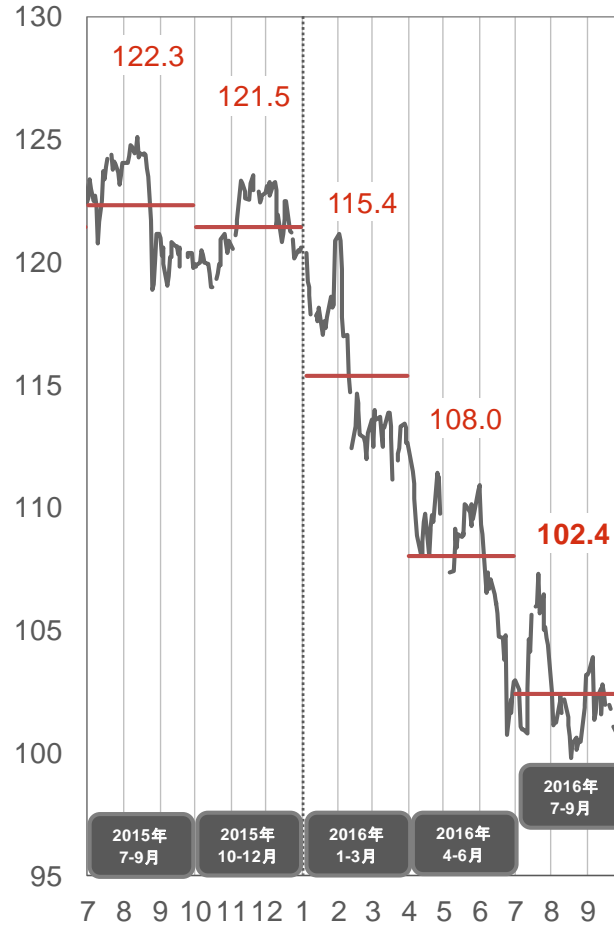
ドバイ原油価格

USD/bbl



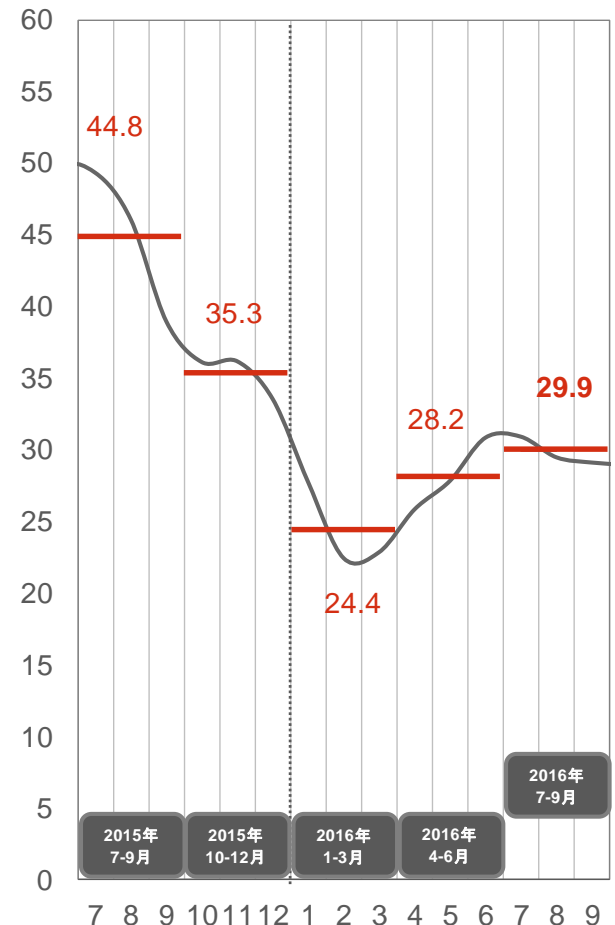
為替レート(ドル)

円/USD



原油通関CIF価格

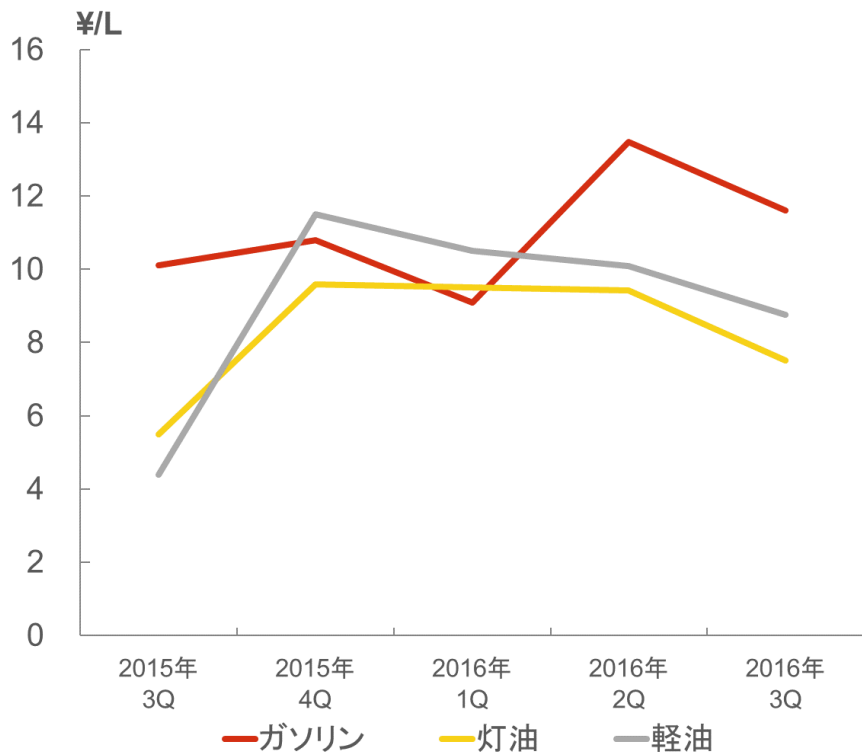
円/リットル



出典：財務省「貿易統計」

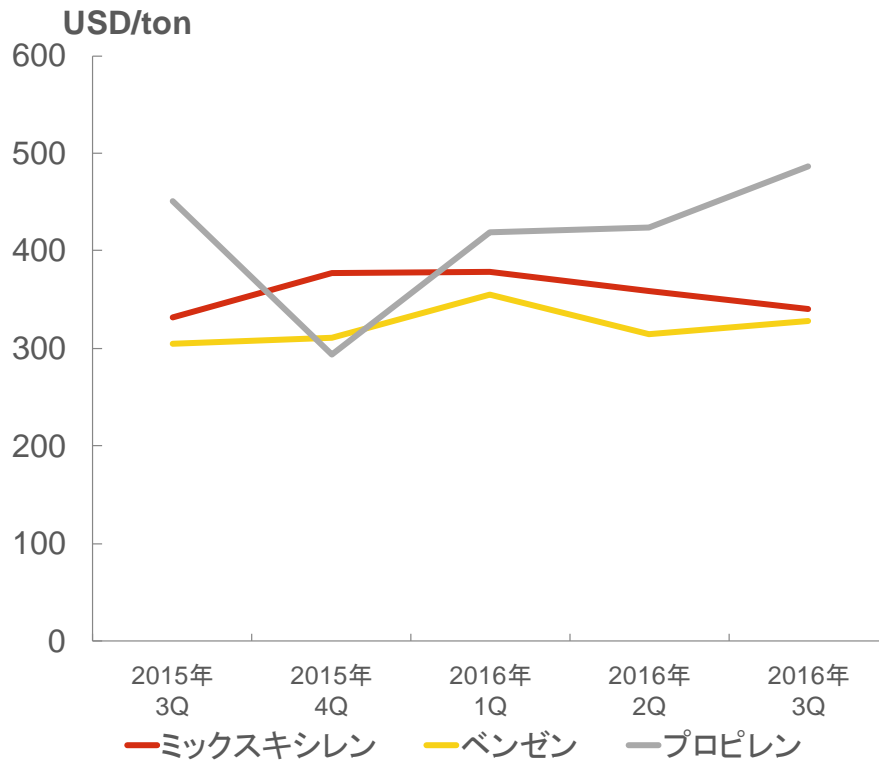


国内石油製品マージン



※ 国内スポット価格－原油通関CIF

アジア極東地域 化成品マージン



※ スポット製品価格－ドバイ原油スポット価格

- 第3四半期の国内石油製品マージンは、前四半期比で悪化。特に7月に原油価格が大幅下落したことで、原価低減に先立って燃料油卸売価格が下落するマイナスのタイムラグ影響が発生したこと、加えて中国からの製品輸出が増加し、海外製品マージンも下落基調にあったことなどが要因
- 第3四半期の化成品マージンは、安定推移。一部石化プラントのトラブルや定期メンテナンスなどにより需給バランスは健全に推移した

決算ハイライト（1-9月）

■ 原油価格および為替レート

		2015年度 1-9月実績	2016年度 1-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	54.4	39.1
為替レート	(円/USD)	121.0	108.6

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2015年度 1-9月実績	2016年度 1-9月実績	増減	前年同期比
売上高	1,668,949	1,263,749	- 405,200	-24.3%
営業利益	-2,775	27,289	+ 30,064	-
営業外損益	-1,232	-2,721	- 1,488	-
経常利益	-4,007	24,568	+ 28,576	-
※在庫影響	-37,451	105	+ 37,556	-
※CCSベース経常利益	33,444	24,463	- 8,980	-26.9%
特別損益	66	2,220	+ 2,153	+3,245.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	-7,415	11,235	+ 18,651	-
※CCSベース親会社株主に帰属する四半期純利益	16,688	11,165	- 5,523	-33.1%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報 (1-9月)

■ 売上高

(百万円)	2015年実績 1-9月	2016年実績 1-9月	増減	前年同期比
石油事業	1,584,254	1,166,900	- 417,353	-26.3%
エネルギーソリューション事業	78,801	90,535	+ 11,734	+14.9%
その他	5,893	6,312	+ 418	+7.1%
売上高 計	1,668,949	1,263,749	-405,200	-24.3%

■ 営業利益

(百万円)	2015年実績 1-9月	2016年実績 1-9月	増減	前年同期比
石油事業	-742	31,858	+ 32,600	-
※在庫影響	-37,451	105	+ 37,556	-
※石油事業CCS営業利益	36,709	31,753	- 4,956	-13.5%
エネルギーソリューション事業	-3,137	-5,552	- 2,415	-
その他	1,097	1,038	- 58	-5.4%
調整額	7	-53	- 61	-
営業利益 計	-2,775	27,289	+ 30,064	-
※CCS営業利益 計	34,676	27,184	- 7,492	-21.6%

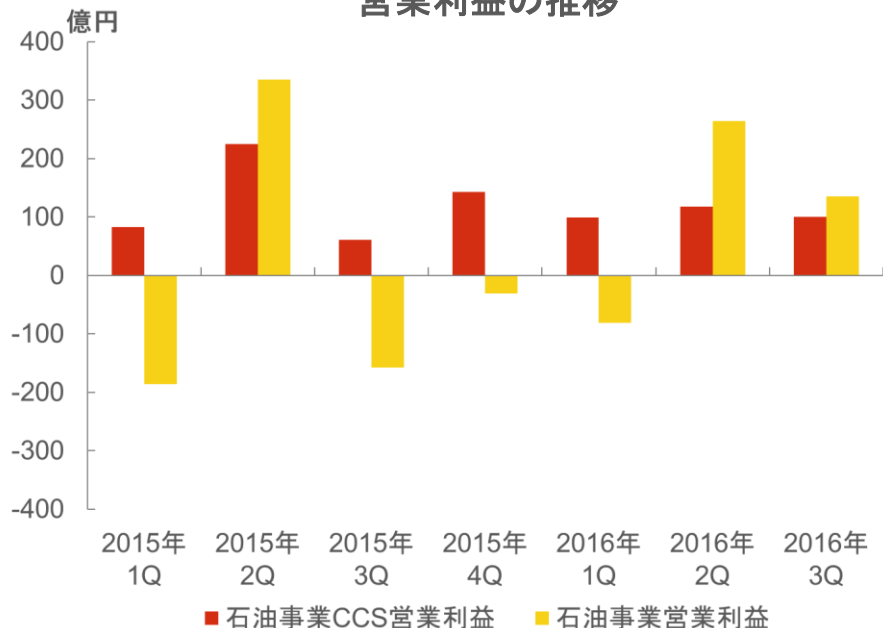
- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給・小売り販売等
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

セグメント別業績概要(7-9月)



石油事業

営業利益の推移

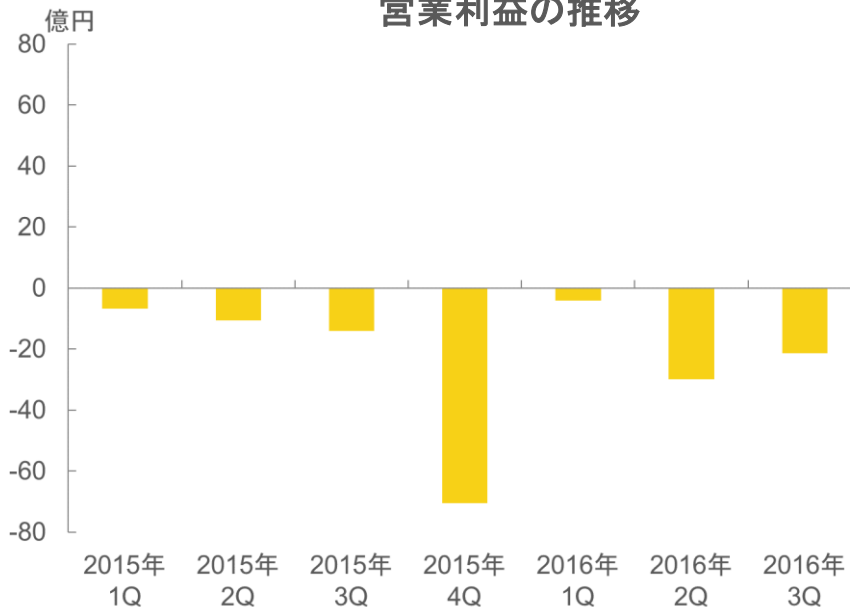


- 第3四半期のCCSベース営業利益は前四半期比で減益となるも、100億円超を確保し、前年同期比では増益。前年・当年ともに原油価格下落に伴うマイナスのタイムラグ影響が発生したが、当年は比較的軽微な影響に留まったことが主な要因
- 引き続き、製品・サービス差別化戦略、継続的な構造的コスト競争力改善活動により収益の最大化を図った
- 在庫評価影響は第2四半期期同様、第3四半期もプラスで推移



エネルギーソリューション事業

営業利益の推移

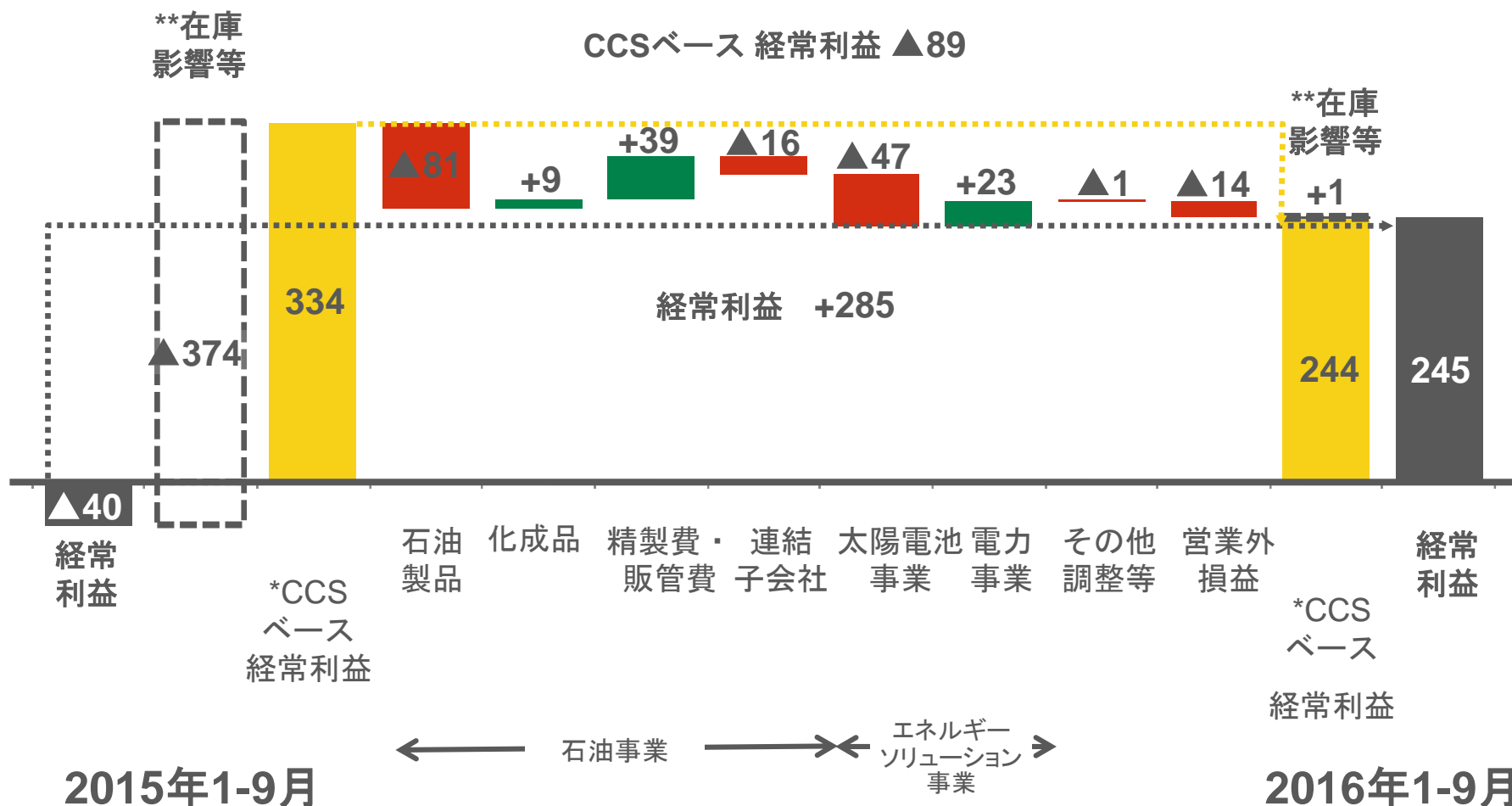


- 第3四半期の営業損失は前年同期比で悪化するも、前四半期比では改善
- 太陽電池事業収益は前四半期比で改善。パネル出荷数量は順調に推移し、生産コスト低減も計画通り進捗。しかしながら、前年同期比では円高の影響もあり、平均販売単価が下落したことで損失は拡大。BOT*案件の販売は年内に実施見込み
- 電力事業は、前年同期比で増益。新規の自社発電所が加わり、事業規模が前年同期比で約30%拡大したことが主要因

*BOT: Build(建設), Own(所有), Transfer(販売)の略称。太陽光発電所を開発し、最終的に発電所そのものを第三者へ販売するビジネスモデル

前年同期比 要因分析(経常利益)

単位： 億円

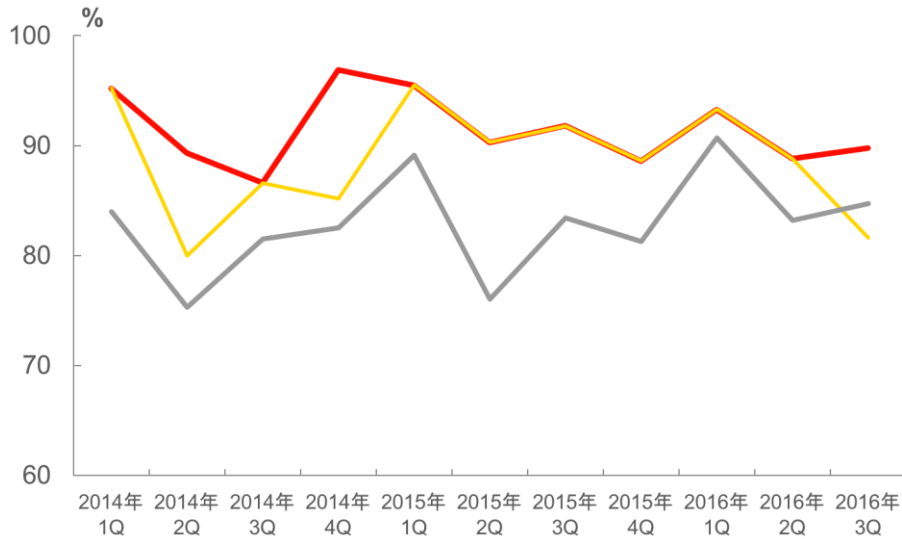


* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む

事業概況 (7-9月) - 石油事業

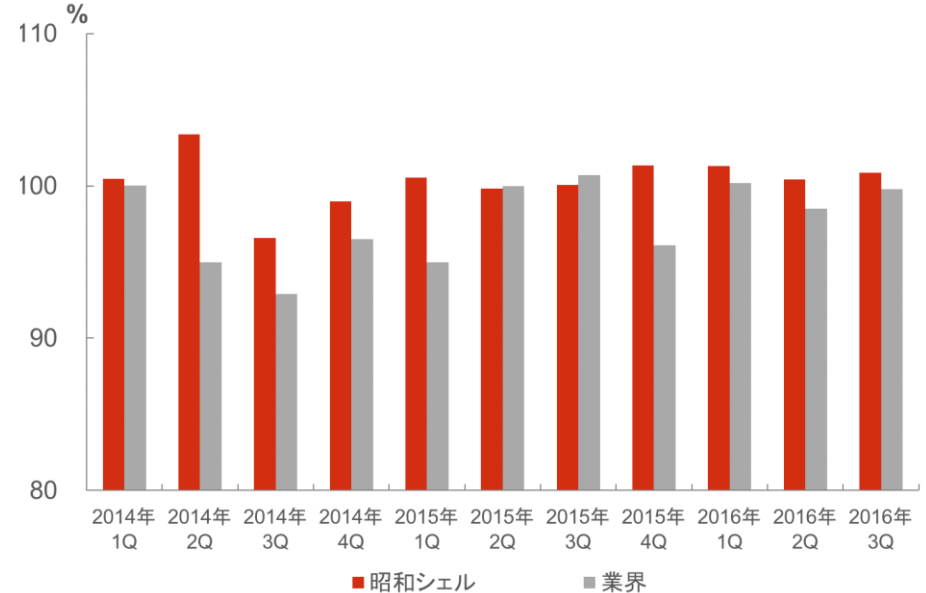


製油所稼働率



— 昭和シェルグループ製油所稼働率(定期修理影響を含まない)
— 昭和シェルグループ製油所稼働率(定期修理影響を含む)
— 国内製油所稼働率(定期修理影響を含む) 出典: 石油連盟

4油種*国内販売数量の伸び率(前年同期比)



■ 昭和シェル ■ 業界
 *4油種: ガソリン、灯油、軽油、A重油
 出典: 経済産業省「資源・エネルギー統計」
 ※2016年3Qの業界は速報値

- 第3四半期のグループ製油所稼働率は、一部製油所で定期修理に入ったため、一時的に業界平均を下回った
- 第3四半期には頻発した台風の影響で天候は不安定であったが、全国的には気温が前年を上回って推移したこともあり、国内需要は総じて堅調。当社のガソリン、灯油、軽油等の4油種合計の国内販売数量は前年を上回るとともに、伸び率も業界平均を上回った
- 差別化燃料である新プレミアムガソリン「Shell V-Power」は、引き続き販売は好調。製品輸出数量は、一部グループ製油所の定期修繕入りの関係で、前年同期比で大幅に減少
- 比較的収益性の高い化成品は、生産最大化を継続。第2四半期に稼働開始した四日市製油所の不均化装置が生産数量の拡大に貢献

原油処理実績および販売数量実績（1-9月）



■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2015年度 1-9月実績	2016年度 1-9月実績
原油処理実績	(千KL)	17,873	17,036
稼働率		92.5%	87.9%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

■ 製品別販売数量

(千KL)	2015年度 1-9月実績	2016年度 1-9月実績	前年同期比
揮発油	6,445	6,485	+ 0.6%
ジェット燃料	1,340	1,447	+ 7.9%
灯油	1,777	1,770	- 0.4%
軽油	3,973	3,968	- 0.1%
A重油	1,427	1,477	+ 3.5%
C重油	793	812	+ 2.3%
化成品* (千MT)	807	816	+ 1.2%
その他	1,893	1,745	- 7.8%
国内販売合計	18,456	18,519	+ 0.3%
輸出	2,456	1,413	- 42.5%
総合計	20,912	19,932	- 4.7%

(補足)

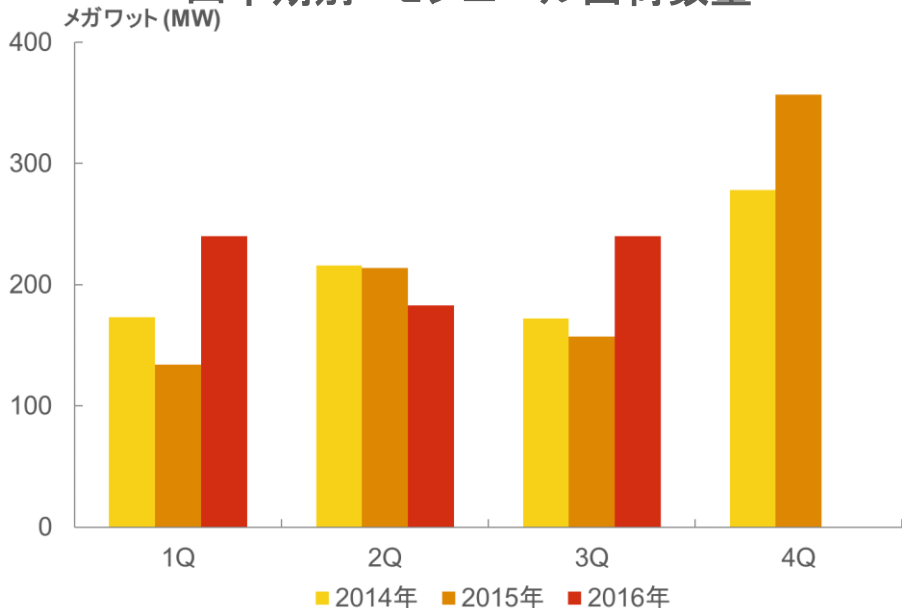
「その他」において前年同期比で大幅に減少している主要因は、2015年4月からLPガス元売事業 統合会社「ジクシス(株)」が発足した ことに伴い、LPガス供給の7~8割を占める輸入品がジクシス自身の調達に切り替わったため。1-9月期におけるインパクトは国内販売合計において約▲2%に当たる。尚、2016年4-6月期以降は、このインパクトは生じません。

*化成品: ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

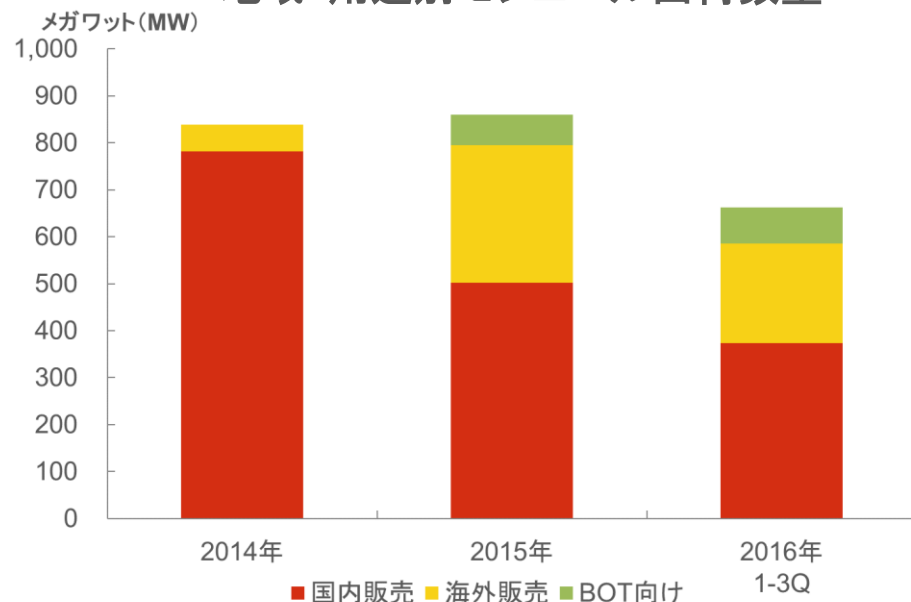
事業概況(7-9月)ー太陽電池事業



四半期別 モジュール出荷数量



地域・用途別モジュール出荷数量



- 第3四半期のパネル出荷数量は、前四半期比、前年同期比ともに大幅増加。円高傾向の継続を鑑み、海外販売を抑制したため、国内販売比率は前四半期比で拡大。一方で、比較的高い付加価値が見込まれるBOT向けパネル出荷は計画に基づき実施
- 中期戦略に基づいた販売戦略を継続。国内では、将来の安定した需要が見込まれる住宅向けの販売強化を推進。海外では、新規市場および顧客の開拓、BOT等の付加価値ビジネスの拡大に取り組んだ
- 販売価格は、国内・海外ともに継続的に下落傾向にある。海外向けは、円高の影響も受け、想定を上回る下落
- 主力の国富工場は、高稼働を維持しつつ、生産コスト低減にも継続して取り組んだ。6月に商業生産に移行した東北工場は、8月には製品出荷を開始。フル稼働体制の構築に向けて、調整を継続

2016年12月期 連結業績予想

※8月10日に発表した業績予想は変更していません。

(百万円)	2015年実績	2016年予想(8月)	前年同期比
売上高	2,177,625	1,680,000	- 497,625
営業利益	-12,209	36,000	+ 48,209
※在庫影響	-54,826	-4,000	+ 50,826
※CCSベース営業利益	42,617	40,000	- 2,617
石油事業	51,014	43,000	- 8,014
エネルギーソリューション事業	-10,191	-3,000	+ 7,191
その他および調整額*	1,794	0	- 1,794
経常利益	-13,282	36,000	+ 49,282
※CCSベース経常利益	41,544	40,000	- 1,544
親会社株主に帰属する当期純利益	-27,467	16,000	+ 43,467

*「その他および調整額」の2016年度予想は、「石油事業」に含まれています。

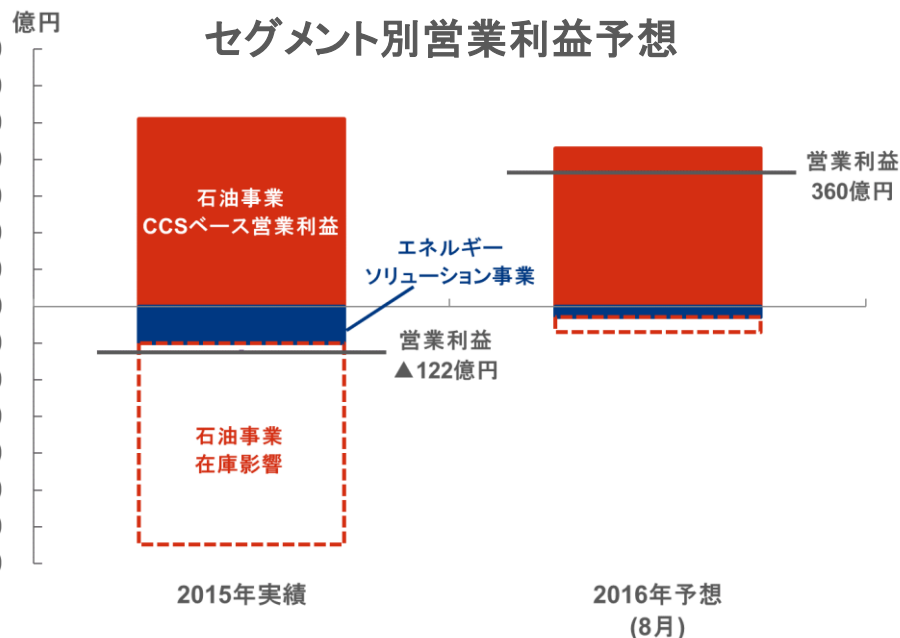
<業績予想の前提>

■ 石油事業:

- ✓ 依然不透明な原油価格および為替の動向を鑑み、8月に発表した業績予想を据え置き
- ✓ 適正な国内製品在庫水準および安定した需要動向を想定し、第4四半期も第3四半期並みのCCS営業利益水準を見込む
- ✓ 引き続き化成品生産の最大化、時宜を得た製品輸出、構造的コスト競争力強化活動に取り組む

■ エネルギーソリューション事業:

- ✓ 太陽電池事業は、国内外で更なる販売価格下落を見込むも、第4四半期収益は前四半期比で改善する見通し。パネル出荷数量の増加、相対的に採算性が低い海外販売の抑制、BOT販売収益、継続した生産コスト低減を見込む
- ✓ 電力事業は、効率的な発電所稼働の継続に加え、卸売りおよび家庭向け低圧や法人向け高圧といった小売りへの販売を強化し、引き続き最適な販売ポートフォリオの構築に取り組む。年間を通じた堅調な収益貢献を見込む



2016年12月期 業績予想の前提と感応度

■ 業績予想における原油価格および為替レート的前提(年間平均)

		前回(8月) 予想	今回(11月) 予想
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	38	38
為替レート	(円/USD)	107	107

■ 前提の変化に伴う在庫評価損益への影響額 (2016年10~12月の影響額)

	変動幅	在庫評価への 影響額(億円)
ドバイ原油価格	1USD/バレル	10
為替レート	1円/USD	4

* 原油価格の変動の仕方や在庫数量によって、結果が異なる可能性があります。

* 低価法の影響は考慮しておりません。

Data Book

決算ハイライト（7-9月）

■ 原油価格および為替レート

		2015年度 7-9月実績	2016年度 7-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	50.0	43.2
為替レート	(円/USD)	122.3	102.4

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2015年度 7-9月実績	2016年度 7-9月実績	増減	前年同期比
売上高	520,469	412,166	- 108,303	-20.8%
営業利益	-16,673	11,614	+ 28,288	-
営業外損益	-1,079	-280	+ 798	-
経常利益	-17,752	11,334	+ 29,087	-
※在庫影響	-21,772	3,507	+ 25,280	-
※CCSベース経常利益	4,020	7,826	+ 3,806	+94.7%
特別損益	-4,389	142	+ 4,531	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	-16,411	6,002	+ 22,414	-
※CCSベース親会社株主に帰属する四半期純利益	-2,398	3,654	+ 6,052	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報 (7-9月)

■ 売上高

(百万円)	2015年実績 7-9月	2016年実績 7-9月	増減	前年同期比
石油事業	495,060	382,423	- 112,636	-22.8%
エネルギーソリューション事業	23,502	27,436	+ 3,933	+16.7%
その他	1,907	2,306	+ 399	+20.9%
売上高 計	520,469	412,166	-108,303	-20.8%

■ 営業利益

(百万円)	2015年実績 7-9月	2016年実績 7-9月	増減	前年同期比
石油事業	-15,737	13,508	+ 29,246	-
※在庫影響	-21,772	3,507	+ 25,280	-
※石油事業CCS営業利益	6,035	10,001	+ 3,965	+65.7%
エネルギーソリューション事業	-1,402	-2,137	- 734	-
その他	467	299	- 168	-36.0%
調整額	-0	-55	- 54	-
営業利益 計	-16,673	11,614	+ 28,288	-
※CCS営業利益 計	5,099	8,107	+ 3,007	+59.0%

・石油事業：揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売

・エネルギーソリューション事業：太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給・小売り販売等

・その他：不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

原油処理実績と販売数量実績（7-9月）



■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2015年度 7-9月実績	2016年度 7-9月実績
原油処理実績	(千KL)	5,974	5,311
稼働率		91.8%	81.6%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

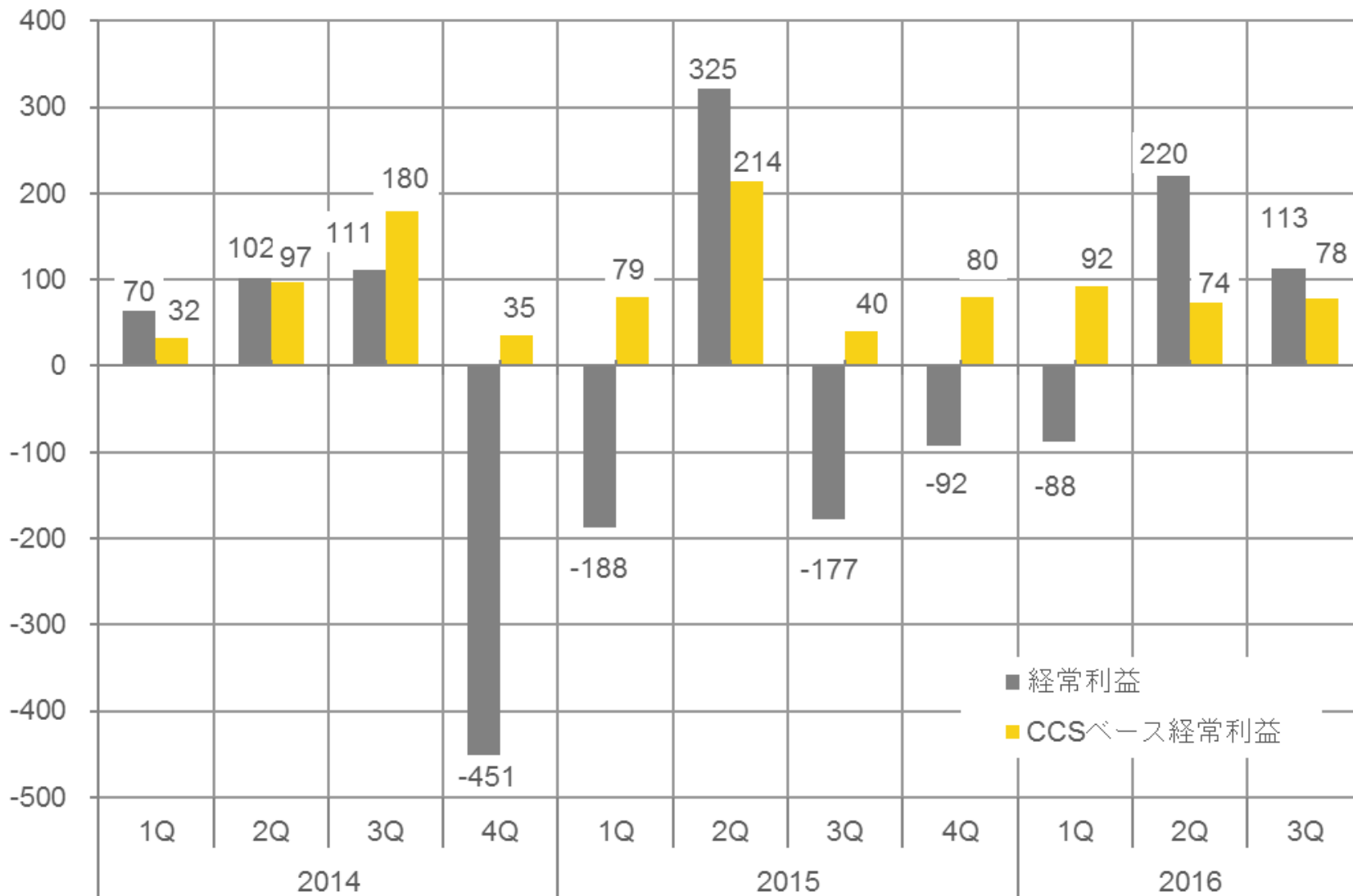
■ 製品別販売数量

(千KL)	2015年度 7-9月実績	2016年度 7-9月実績	前年同期比
揮発油	2,264	2,289	+ 1.1%
ジェット燃料	476	498	+ 4.8%
灯油	275	258	- 6.2%
軽油	1,322	1,344	+ 1.7%
A重油	423	429	+ 1.4%
C重油	227	196	- 13.9%
化成品* (千MT)	272	297	+ 9.2%
その他	520	566	+ 8.9%
国内販売合計	5,778	5,878	+ 1.7%
輸出	919	127	- 86.2%
総合計	6,697	6,005	- 10.3%

*化成品： ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

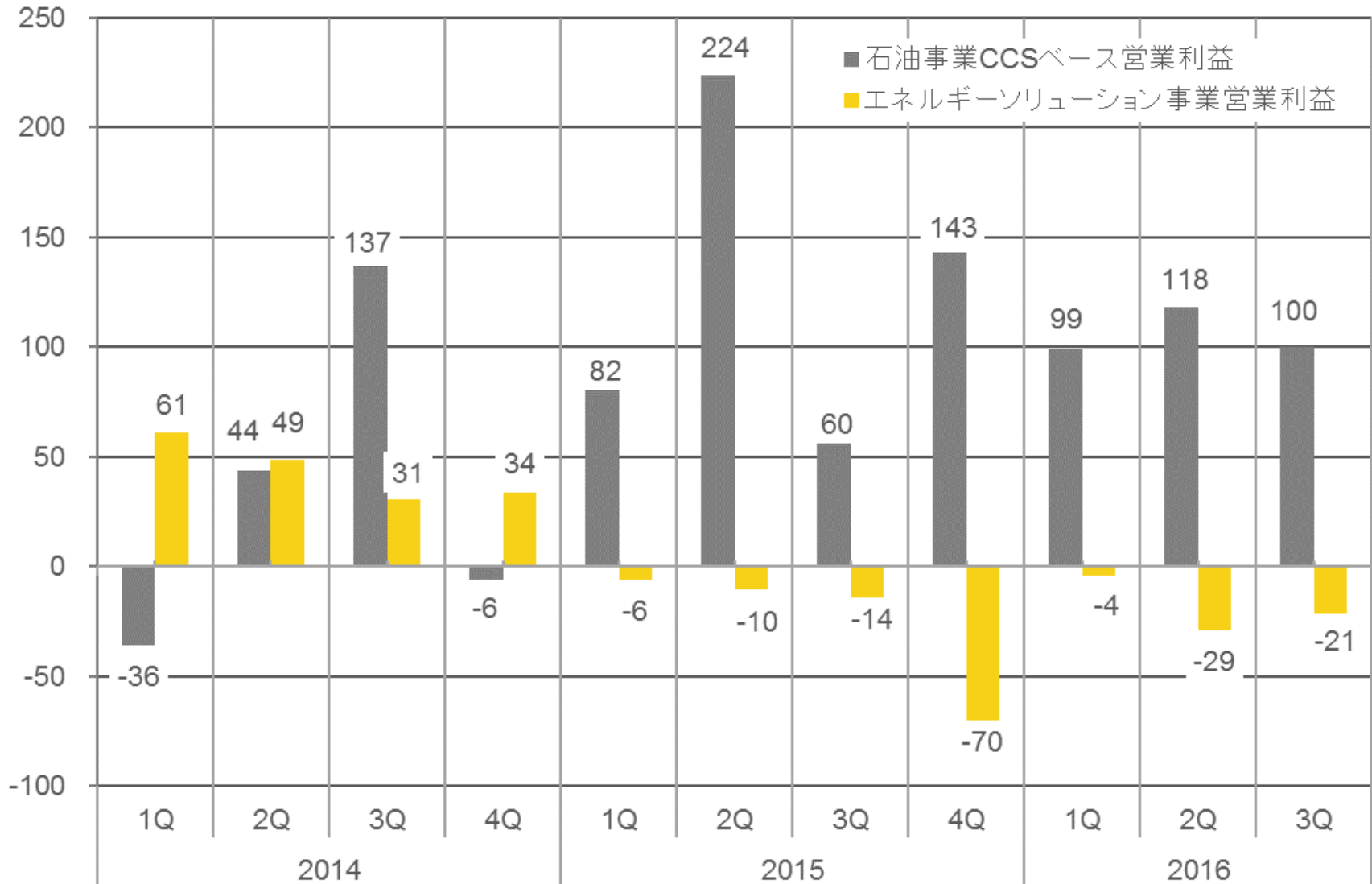
四半期別 経常利益の推移

億円



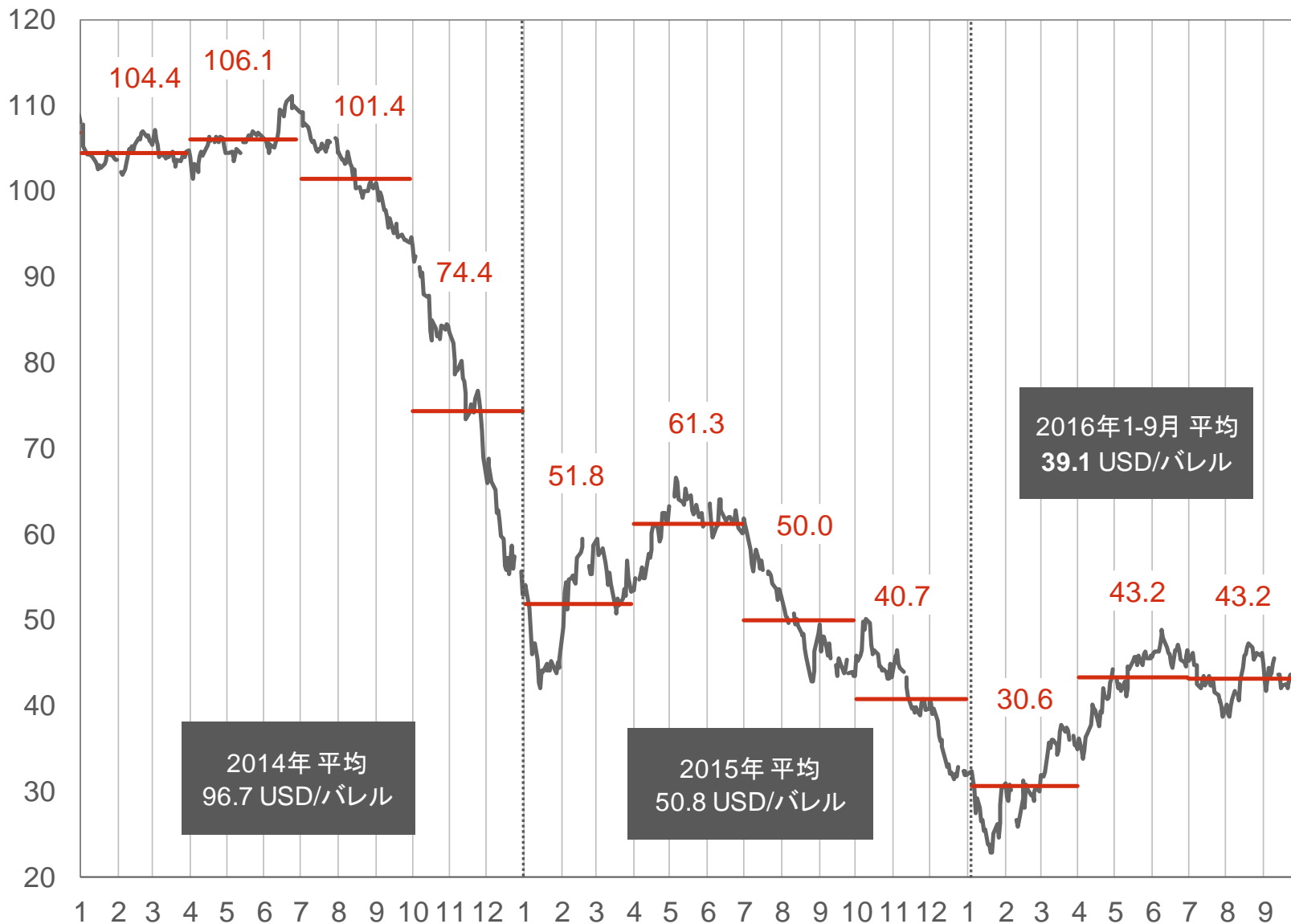
四半期別 セグメント別 営業利益の推移 (CCSベース)

億円



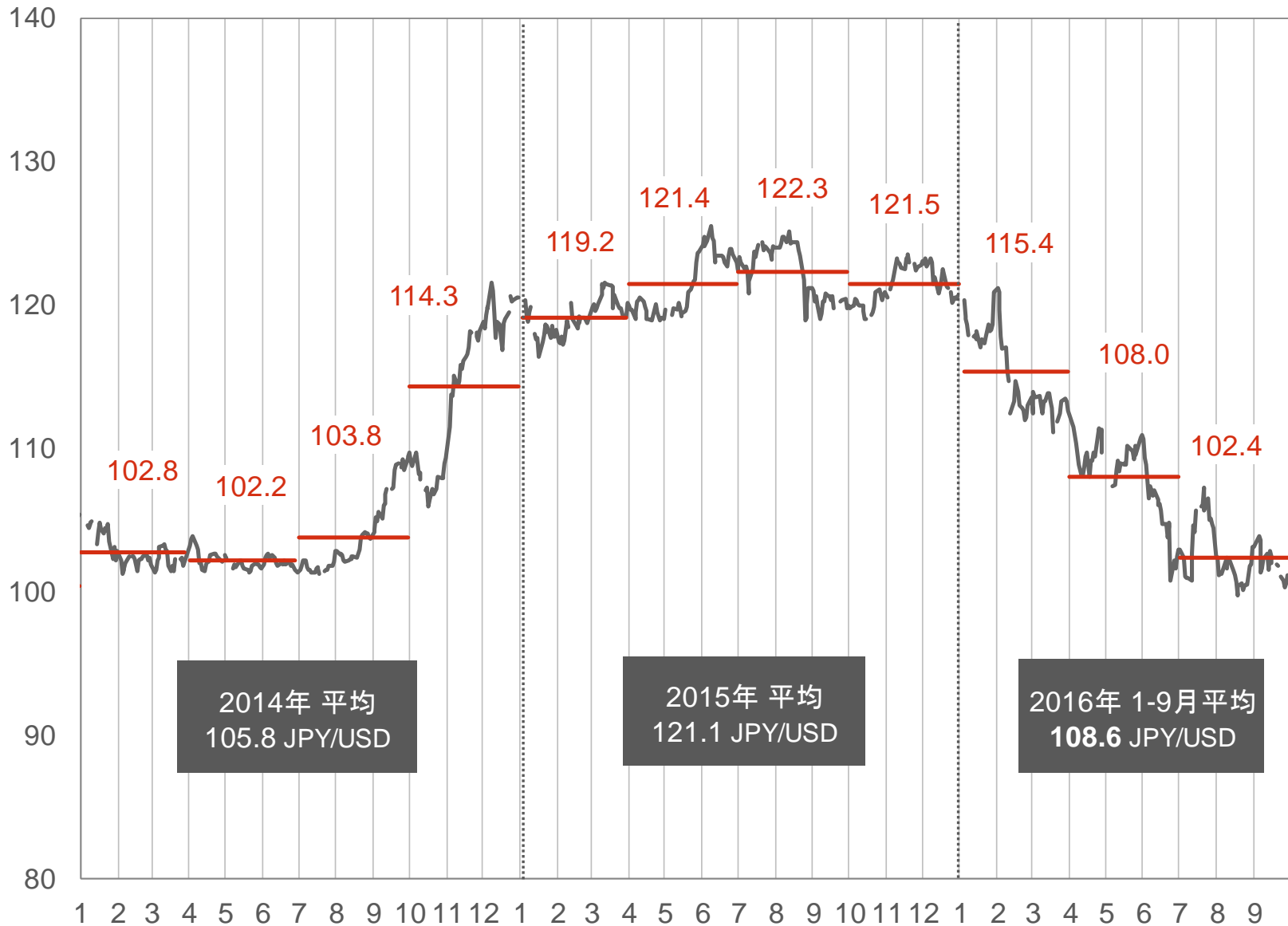
ドバイ原油価格の推移

(USD/バレル)



為替レートの推移 (円/アメリカドル 仲値)

(円/USD)



2014年 平均
105.8 JPY/USD

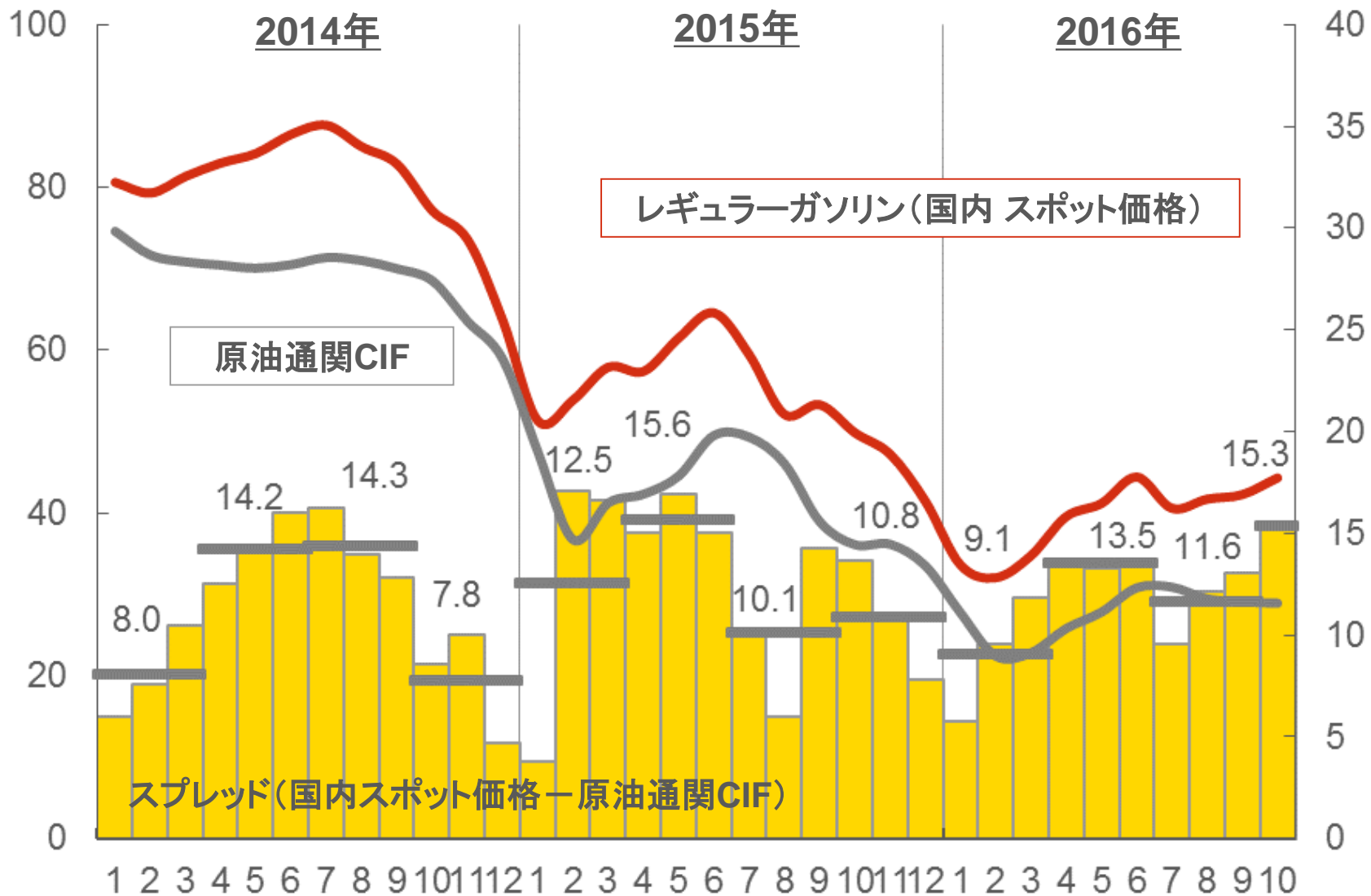
2015年 平均
121.1 JPY/USD

2016年 1-9月平均
108.6 JPY/USD

国内マーケットの状況① (ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド ¥/L

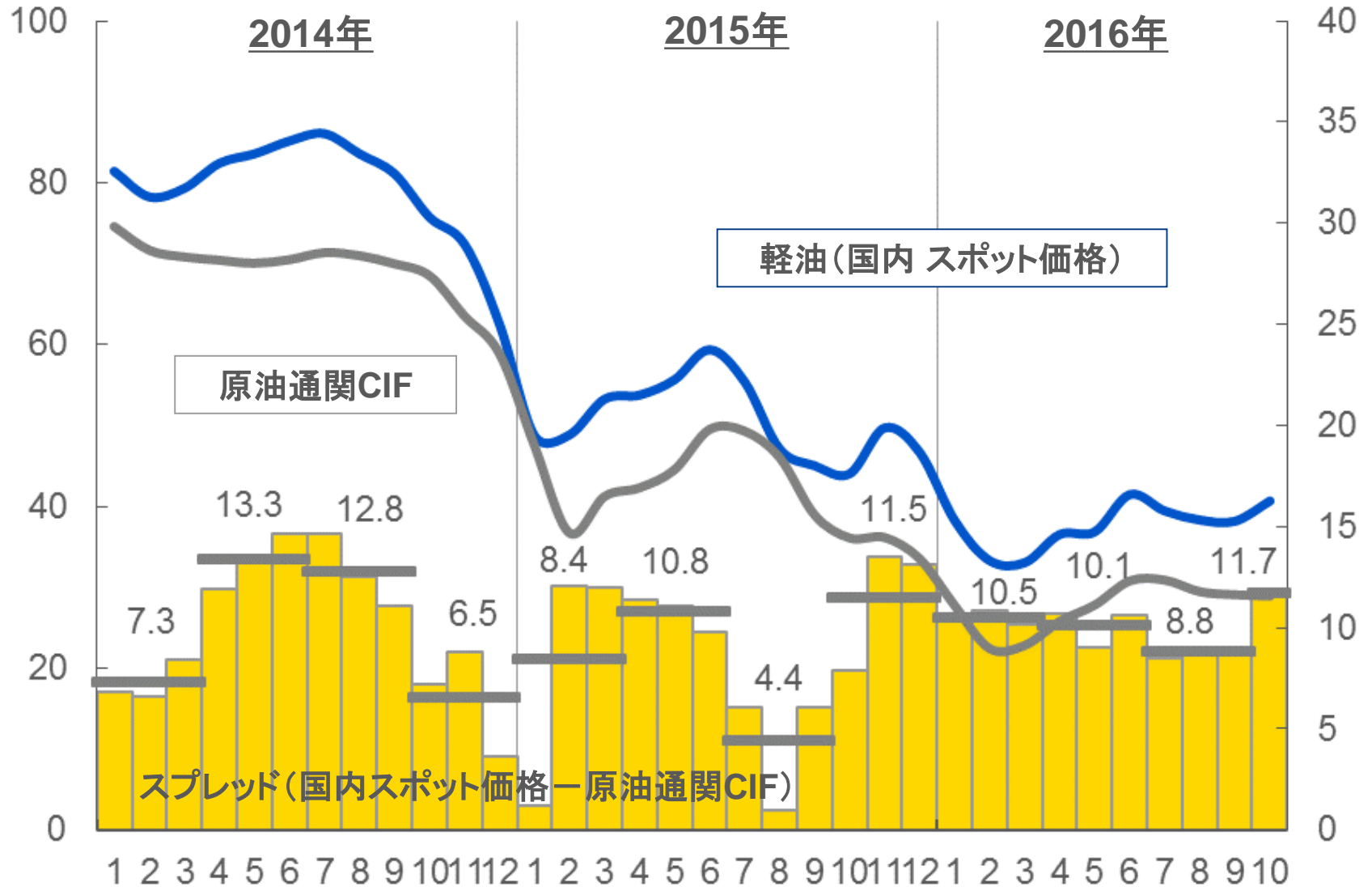


・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年9・10月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況②（軽油）

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L

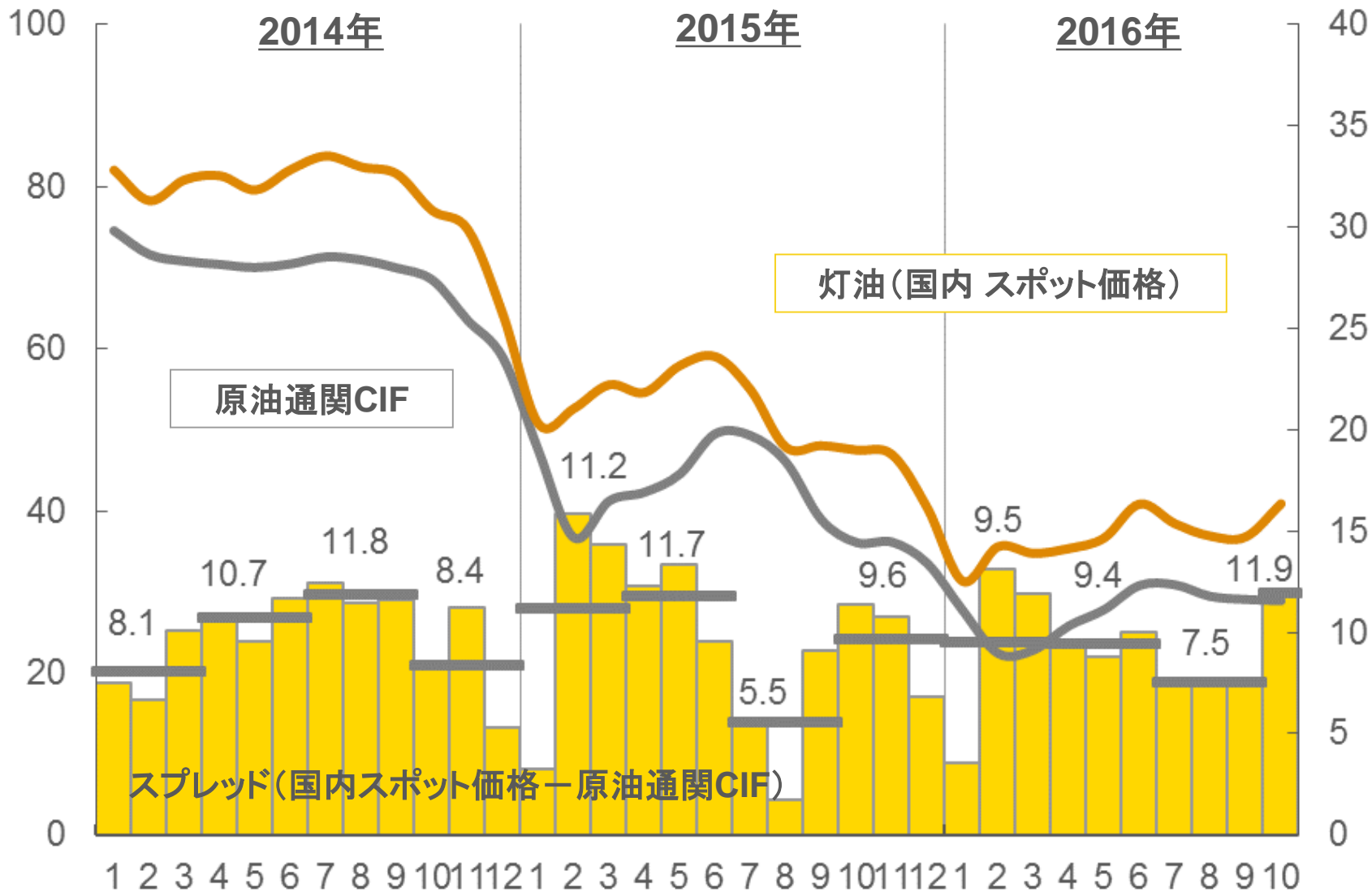


・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年9・10月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況③（灯油）

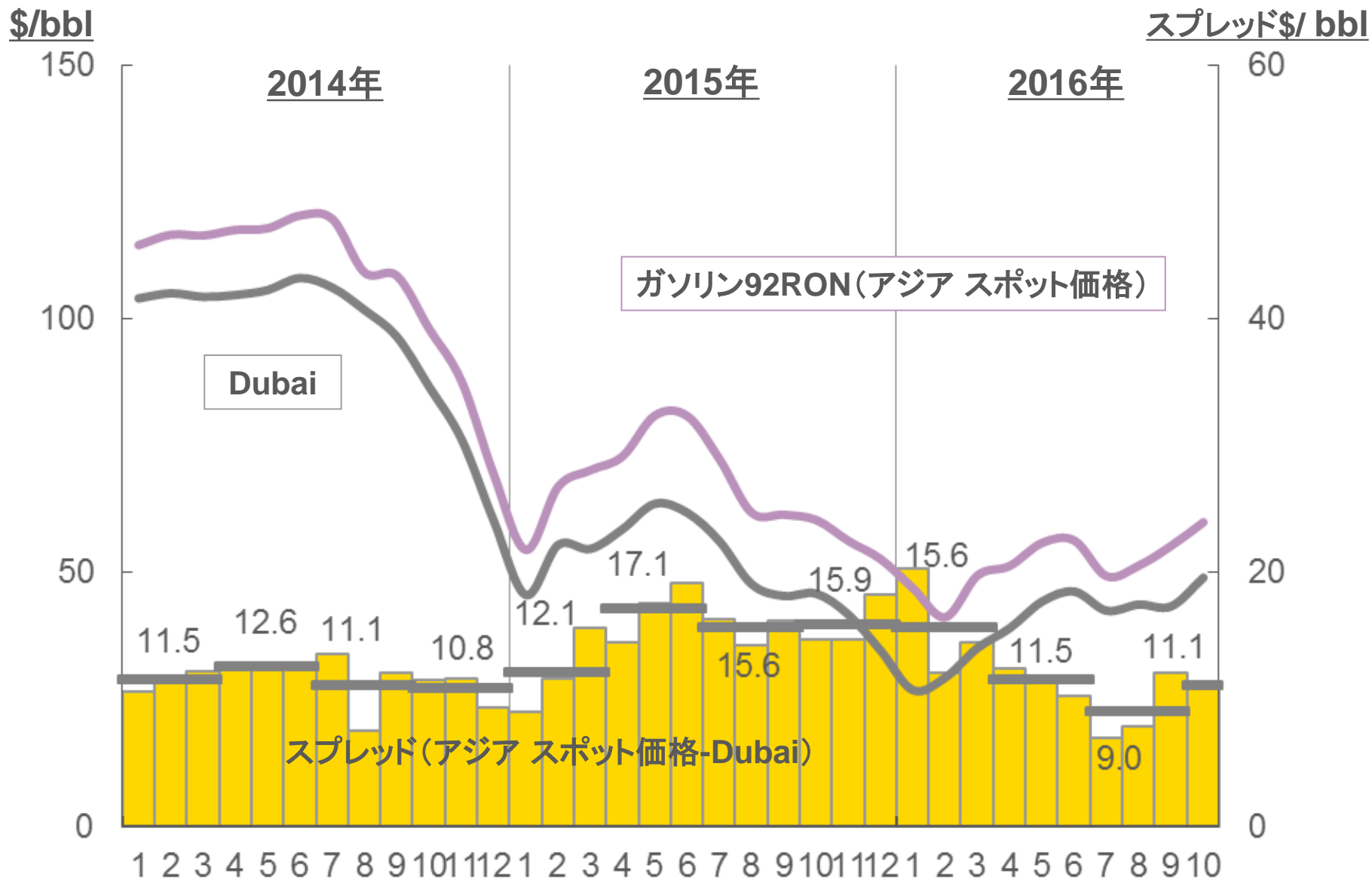
原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



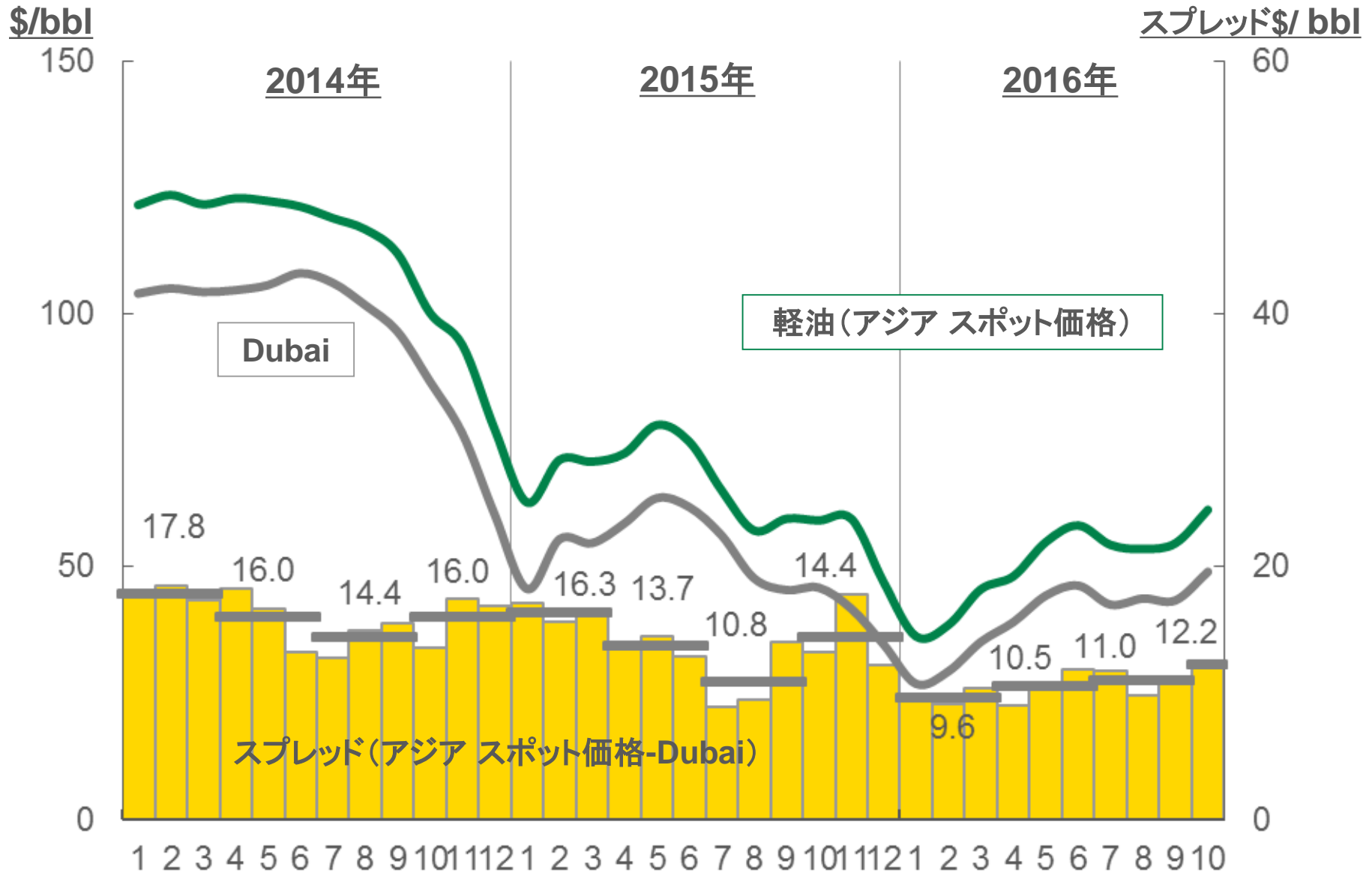
・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年9・10月の原油通関CIFは暫定値

海外マーケットの状況① (ガソリン92RON)



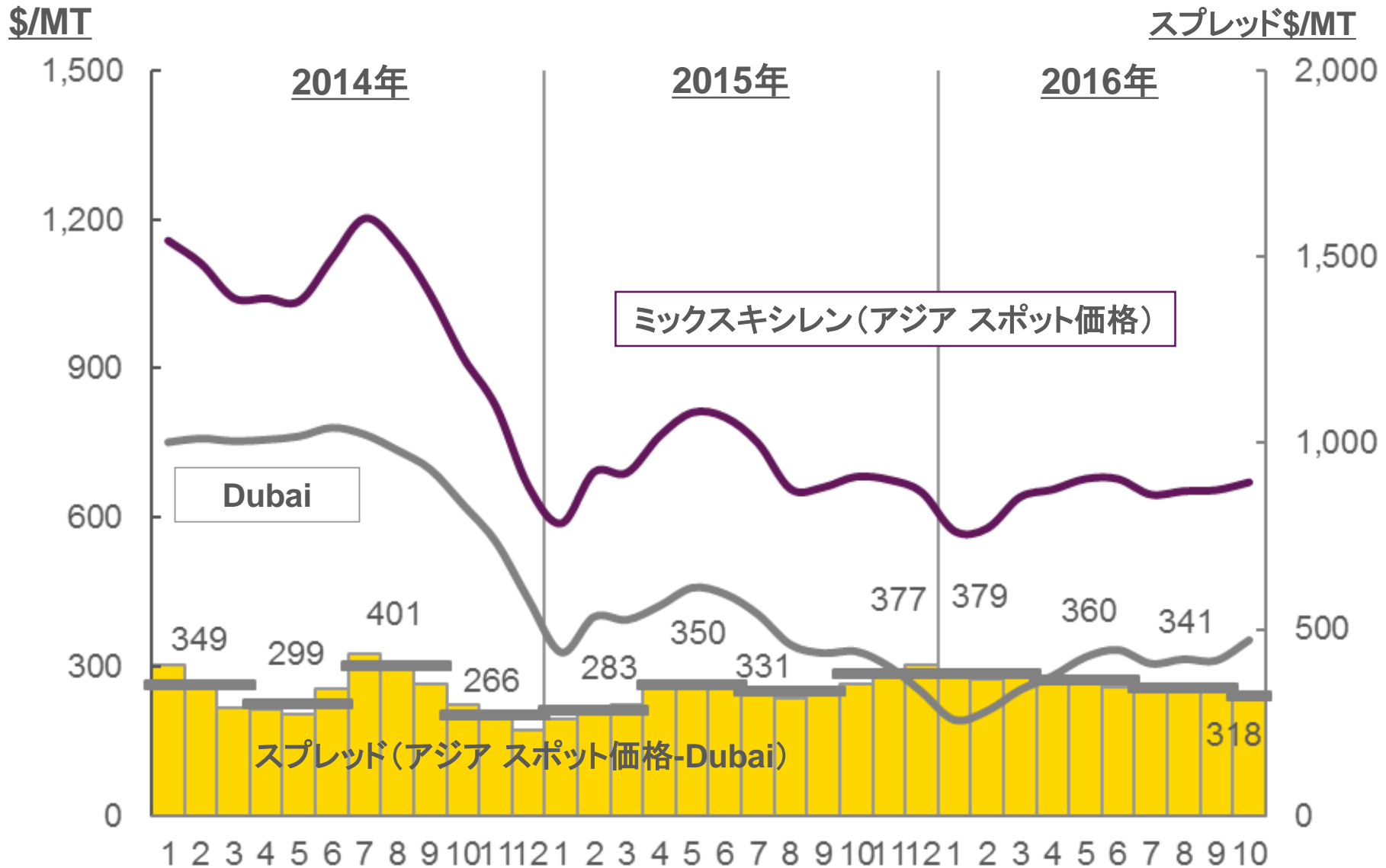
・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況②（軽油）



・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況③(ミックスキシレン)



・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

